

光る未来に全ツツパ。

⑨

『俺一人でやるわ。独立配信宣言』



動画サムネに映るのは、俺ひとり。タイトルは、ガチで1人でやります。人生かけてます。

内容は——『スマスロ モンスターハンターライズ』で2万ストレート負けて無言で退店する俺の姿。

ただの負け動画。でも、コメント欄はなぜか盛り上がっていた。

【哀愁すごい】

【これはこれでアリ】

【ミサキ帰ってきて】

……いや、帰ってくるわけないだろ。

動画をアップしたあとは、駅前のネットカフェでカップ麺をすすりながら独り反省会。

「いやあ……終わってんな、マジで」

ヘッドホンを外して、天井を見つめる。

隣の席のリーマンのいびきが響いていた。空気が清浄機が、誰の罪かもわからない煙草の残り香をかき混ぜている。

俺は、ここで何をしてるんだろうな。

その時、久しぶりにコースケ先輩から着信があった。

「おう、タイチ。最近、動画全部見てる。お前、人生削りすぎやろ」

「先輩……ソロ、どうすかね」

「おもしろいけど寂しいって感じやな」

「ウケてはいる……けど、なんかこう、手応えないっていうか……」

「そりゃあ一人で突っ走ったら、だいたい転ぶわな」

「先輩……今、俺って設定いくつくらいですかね」

「うーん……リセット後の2割って感じ」

「それもう地獄じゃないっすか！」

笑いながらも、心のどこかに、妙な空虚感が残っていた。

次の日。駅前のガード下で缶コーヒーを飲んでいたときのこと。

「……え？」

目の前を通った女性に、見覚えがあった。

金髪、ストリート、少しゆるめのトップス。

——ミサキや。

思わず声をかけそうになった。

だけど、隣に、男がいた。

俺より背が高く、落ちていた雰囲気。笑っていた。ミサキも、笑っていた。

スマホを見せ合って、何か楽しそうに話していた。その光景を見た瞬間、俺は言葉を飲み込んだ。

手に持った缶が少し潰れた。

その夜——人生で初めて、動画を休んだ。

布団にくるまって、スマホの画面をスクロールしながら、過去のコメントを眺めていた。

【ミサキとタイチの空気感が好きだった】

【付き合っていないのが逆にエモい】

【ミサキ、ツンデレ説】

どれも、当時は茶化して笑ってたやつばかり。でも今は、その言葉が胸に刺さった。

次の日。俺は久々にカメラを回した。

鏡に映った自分の顔はむくんでいた。

目は赤くて、まぶたが重かった。

でも——やるしかなかった。

「……どうも、タイチです。今日は、今さら後悔しても遅い説」を検証したいと思います」

打つのは「Lバチ スロ機動戦士ガンダム SEED」。

俺が勝手に、ミサキの台って呼んでる機種。

液晶の演出が始まる。ピンクのカットイン。チャンスアップ、なし。

「あー……これ、ミサキ好きやったな」

思わずつぶやいたその瞬間、スマホに通知。

【それ、聞きたくなかった】

【ミサキの声が足りない】

【早く戻ってきて】

俺の手が止まった。

——ほんと、何やってんだろ、俺。

カメラを止めて、しばらく空を見た。

そしてふと思った。

——会いに行こうかな。

その日の動画タイトルは、「そろそろ素直になります」。

コメント数、過去最高。

次号に続く……